



【自衛隊札幌病院創立68周年記念行事】

令和5年6月10日

令和5年6月10日（土）自衛隊札幌病院（病院長 鈴木陸将）は、自衛隊札幌病院創立68周年記念行事を挙行了。今年は9名の来賓のご臨席を賜わり、記念式典と自衛隊札幌病院移設8周年記念植樹及び病院の歴史資料等に関する展示を実施した。

鈴木病院長は式辞で「新型コロナウイルス感染症5類化に伴う生活・行動様式が大きく変化する中においても、この1年間、与えられた任務をしっかりと果たし、着実に歩みを進めることができたことに対して、職員相互に労をねぎらい合うとともに、使命感をもって勤務しその原動力となった、諸官一人一人に感謝と敬意を表したい。

真駒内駐屯地に移駐、新築移転し満8年が経過し、この間、病院診療、巡回診療、健康管理、衛生支援等で北部方面隊の任務遂行に大きく貢献し、また、複数回の災害派遣活動において、立派に任務を完遂し、国民の安心・安全に大きく寄与するとともに、各種の国際平和活動では病院から多くの要員を派遣し、日本国陸上自衛隊として世界の安全保障にも大きく貢献してきた。昨年12月に「戦略3文書」が閣議決定され、我が国の抑止力・対処力を一層向上させるため、抜本的な防衛力の強化の方針が示された。衛生分野においては、隊員の壮健性の維持に加え、有事における第一線から最終後送先病院までのシームレスな医療・後送態勢を構築し、隊員の生命・身体を救うことがより重視されるなど、「衛生機能の変革」を確実に進めることが求められている。

自衛隊札幌病院も、北部方面隊の固有の2つの任務である、北海道の防衛警備と道外へ緊急展開し所期の任務を完遂することに最大限寄与しなければならない。病院における診療を更に充実させ中核型基幹病院・急性期病院としての役割と衛生科隊員等の人材育成拠点となるために、更なる病院能力の向上を図り、部内のみならず地域と「総合した連携の強化」を行っていく必要があり、平素から「万事作戦」を意識し、積極的に野外訓練にも取り組み、部隊の運用の実効性の向上と個人の能力向上を図りながら、現場において、「衛生機能の変革」を実行し、北部方面隊の衛生支援能力を着実に向上できるように、職員一丸となって引き続き努力していきたいと思う。

今後も、この自衛隊札幌病院が、各種事態に「即応」し、環境の変化に適切かつ柔軟に対応できるよう「進歩」し、「誇り」と使命感をもって、国民の期待に応えるという責務をしっかりと果たせるよう、職員一同の力を集結して、「信頼される自衛隊札幌病院の創造」に邁進していく。」と述べた。

また、これまでの病院に対する積極的な支援・協力により院務運営に寄与された、札幌市医師会会長 今 真人 氏、委託歯科医師 荻 和弘 氏の2名に病院長から感謝状が贈呈された。



記念式典



執行者式辞



豊友会長祝辞



記念植樹



病院の歴史等の展示



集合写真